

DV被害を 相談されたら...

あなたにもできることがあります

～被害者の心は傷ついています 2次的被害を防ぐために～

◆被害者の多くは身近な人へ相談しています

DV（「ドメスティック・バイオレンス」。配偶者や交際相手など親密な関係にある（あった）人からふるわれる暴力）を受けた経験のある女性は、非常に多く存在します。

しかし、さいたま市が行った市民意識調査では、実際に誰かに「相談した」と回答した人は半数以下にとどまっています。相談した相手（場所）について、前回調査結果と比べると、未だ「友人・知人」、「家族・親戚」といった身近な人への相談が多く、若干の増加はみられますが、専門機関に相談がつながるケースが少ないのが現状です。

もしかすると、あなたも相談を受けることがあるかもしれません。

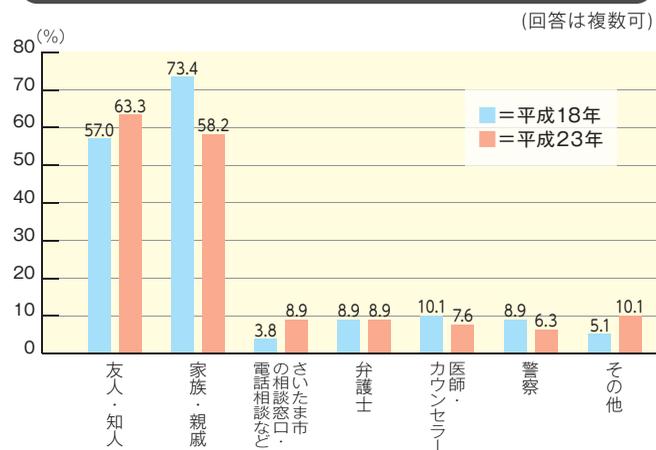
◆理解し寄り添うことが大切です

被害者は、勇気を出して相談しています。

「大したことではない」「あなたも悪いのでは」といった心ない言動は、被害者がさらに傷つき、自分自身を追い詰めてしまうなどの「2次的被害」を招くおそれがあります。

もしも、あなたが身近な人から相談されたら、最後までしっかり話を聞き、被害者の立場になって理解することが大切です。そして、専門の相談機関を紹介してあげること、不安や孤独はやわらぎ、さらなる被害から救うことにつながります。

女性が配偶者などから受けた暴力行為を相談した相手（場所）



資料出所：さいたま市「男女共同参画に関する市民意識調査」（平成24年1月）

（相談先）秘密厳守！相談無料！

“自分のこと、家庭のこと、職場のこと、DVなど”

パートナーシップさいたま【女性の悩み電話相談】

048-643-5813

専門の女性相談員がお話をうかがいます

月～金曜日 ▶ 午前10時～午後8時
土・日・祝日 ▶ 午前10時～午後4時（毎月第4日曜日・年末年始を除く）

『男女共同参画推進センター』をご存知ですか？

さいたま市では、男女共同参画の実現を目指すことを目的として「男女共同参画推進センター（愛称：パートナーシップさいたま）」を設置しています。各種講座や講演会の開催、図書・資料の貸し出し、会議室の貸し出しなど、さまざまな用途でご利用になれます。



▲資料コーナー



▲交流コーナー

問合せ 大宮区桜木町 1-10-18 シーノ大宮センタープラザ 3階

TEL : 642-8107 FAX : 643-5801 E-mail : danjo-kyodo-sankaku@city.saitama.lg.jp

人生に絶体絶命はない あきらめなければ必ず解決します

●仕事でのポリシーは...

「現場の東海林です」という決まり文句で知られる東海林さんは、ラジオアナウンサーから転身後42年間、フリーのリポーターとして、時代を象徴する出来事を発信し続けてきました。ポリシーは、強い精神力と健康を保つこと。そして、これを基本に、仕事に対し一生懸命向き合おうと話しします。

しかし、初めは男性ばかりの取材現場に女性が関わることは無理だと言われていました。

「当時携わったある事件で、被害に遭われたお母さんの気持ちに、同じ母として少しずつ寄り添い根気強く足を運んだ末に、東海林さんならと話をうかがうことができたんです。この時、女性の力が世の中を変える、女性視点だからこそできることもあるのだと自信が付き、仕事

PROFILE 東海林のり子さん

1934年さいたま市（旧浦和市）生まれ。立教大学卒業後ニッポン放送に入社。13年間のアナウンサー生活のちフリーとなり、「3時のあなた」「おはようナイスデイ」の事件リポーターとして活躍。ロックバンド「X」のレポートで若者の支持を得る。現在はテレビ、ラジオ、講演、携帯サイトなどで幅広く活動中。

●家庭と仕事を両立するのは...

東海林さんは「人生に絶体絶命はない」という独自の格言を持っています。子どもを置いてどうしても仕事に行かなければならないときに、方々手を尽くした結果、助けてくれる人が見つかった経験がありました。そのことから、「あきらめなければ必ず解決する」と気づいたんです。

こうして、子育てと仕事を両立しながらどんな困難な状況でも乗り越えてきました。

また、「家庭内では、いつでも仕事に対し前向きな姿勢を見せることで家族全員が私の応援団になってくれました。だからこそ、休日・夜間もないような仕事でも続けることができました」と、東海林さんは嬉しそうに話します。今は別々に暮らす

年齢や性別にとらわれることなく自分の可能性に向かって輝いている著名人をご紹介します。

娘さんも、仕事を持ったときに、より一層東海林さんの気持ちがあわかったと言ってくれたそうです。

●いれからの目標、夢は...

放送業界で仕事を始めて55年。目標は、要望がある限り現役でいることです。本の著作や携帯サイトの悩み相談など新しい分野にも積極的に活動を広げている一方、「漫才をやってみたい!」と目を輝かせる東海林さん。いつも明るく前向きな姿勢で、今後も自分らしく活躍し続けることでしょう。

本誌のタイトル文字を書いていただきました!

夢



▲生まれてから25年間浦和で過ごされた東海林さん。「学校生活や人の優しさが良い思い出。浦和は私の原点です」